
対なる王子となかなか笑わない姫君

九重 九十九

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

対なる王子となかなか笑わない姫君

【Nコード】

N5431V

【作者名】

九重 九十九

【あらすじ】

双子で産まれてくるといって、運命を背負い

共に成長していく兄弟とは裏腹に、言い伝えによって

離ればなれになる兄弟、だが、それぞれの道を迷わず突き進む

プロローグ

ある王国に待望の男の子が産まれ、その男の子は王子になる資格があった。だが、一つだけ問題があった。それは、王子が双子で産まれてきた事だ。

その王国には昔から言い伝えられているある伝承がある。『王家の生まれし者。対なる血を持つは者、国に災いを招かん』と。

しかし、それはあくまでも迷信。民は昔からの伝承を信じている為、二人の王子が8歳になった頃に試験を与えた。そして、優秀な功績を残した者を自国に残し、不出来な者を盟国へと送る。そう決めたのだ。

二人の王子は、数多の試験を乗り越え、知力や、判断力と王子としての資格を計る為の試験を受けてきた。そして今、彼らは魔物を倒す最後の試験の最中であつた。

その時にはもう弟を守ろうと、自分を犠牲にしようと、弟のアイニ―を、自国へ残すことを決意していた。

これまでの成績を見ると、兄デストの方が試験を好成績で進めている。だが、アイニ―には人望があり、人の上に立つ資格があつた。

最後の試験が終わり、国王はデストを王子にしようと決断した。だが、デストは両親の元へ行き、自らの意思を告げたのだった。

その後、弟アイニーは王国の王子になり、兄デストは遠くの同盟国へと送られたのであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5431v/>

対なる王子となかなか笑わない姫君

2011年10月9日11時48分発行